

5 3つのガク都（「岳都」「学都」「楽都」）

(1) 岳都

山岳都市を意味する「岳都」。松本の市街地からは北アルプスの山並みが望めます。近代登山の黎明期、松本を出発点に多くの人々が北アルプスの山の頂を目指したほか、早い時期から学校登山も取り入れられました。今も、北アルプスの玄関口として、毎年多くの登山客を迎えていきます。上高地線は、松本を登山の起点として、上高地方面に向かう人々の重要な足として敷設されました。平成19年5月、オープンした「山と自然博物館」は、多くの山岳関係資料が展示されています。

また、平成13年には海外13カ国、国内6都市が参加し、「山と環境：登山、山岳観光の振興と環境との共生」をテーマとする「世界岳都都市会議」が松本市で開催されました。

平成19年には、国際山岳連盟総会(10月)、アジア山岳連盟総会(10月)、国際山岳ガイド連盟年次総会(11月)など100周年を記念して多くの国際的な山岳関係の会議を誘致しました。

(2) 学都

教育の盛んな町としての「学都」。筑摩県では、廃仏毀釈となった廃寺となつた本堂や庫裏(くり)を校舎に転用することを考え、学制発布前から「学校」の設立を積極的に進め、明治5年5月5日には藩主の菩提寺だった全久院を校舎として筑摩県学が開校。翌年には開智学校として開校し、全国的に見ても高い就学率を上げました。開智学校の校舎建設にあたっては、町民からの寄付が多く集められたことから、一般の人々の関心が非常に高かったことが伺え、その気風が松本高等学校、さらには今日の信州大学へつながっています。

(3) 楽都

音楽の「楽都」。昭和60年に「音楽とスポーツ」都市宣言をしている松本市は、「音楽文化ホール」やサイトウ・キネン・フェスティバル松本の拠点施設として利用されてきた「長野県松本文化会館」といった音楽に適したコンサートホールが備わっています。さらに、平成16年8月29日には、コンサート、オペラ、演劇等、幅広い分野に活用が期待される「まつもと市民芸術館」がオープンしました。